

「toward a vibrant Africa(元気なアフリカを目指して)」とは？

竹田悦子 (アフリカンコネクション)

2008年5月28日から30日の3日間、横浜で開かれる第四回アフリカ開発会議。日本政府が、国連諸機関と協力してアフリカの開発問題を政府の政策レベルで、アフリカの閣僚をアフリカから招いて話しあい、協力していこうというものだ。この会議は、1993年を最初に5年に一度開かれてきており、今回は横浜の開港150周年、市政120年の記念にあたることから、その記念の一環としてアフリカ開発会議の横浜での開催への運びとなっているようだ。

会議のタイトルに、「toward a vibrant Africa(元気なアフリカを目指してー希望と機会の大陸)」とある。日本政府がアフリカを援助の対象としてだけみるのではなく、希望と機会の対象と捉えている。投資・貿易の対象としてのアフリカに注目している。アフリカには希少鉱物資源をはじめ、石油・石炭などまだ開発されていない地域も数多くあり、ヨーロッパ、アメリカ、中国が利権争いに奮闘している。

特に中国は、戦略的に外交を展開しながら、次々とアフリカの資源の利権を手に入れて自国の発展のための資源確保を図っている。また、アフリカの大統領や大臣の中国訪問も数多く行われ、中国の国家主席、政府要人のアフリカ訪問も同じく盛んに行われている。

しかし。

諸外国のアフリカへの援助の歴史は今や50年以上を越えているが、いまだすべてのアフリカ人が人間の最低限の生活を送れるようになるどころか、貧富の差は国内でも激しくなっており、その差はますます広がってきている。

開発会議、開発政策、援助、いろいろな試みがアフリカでは国、政治レベルで日々行われている。そのためにヒトもモノも動く。

しかし。

いまそこにいる一人のアフリカ人の生活が、それによって少しでも変わる確率はどのくらいあるのだろうかを、私は思ってしまう。もちろん、長期的には変わっていく可能性もあるのだろうとは思う。

さてアフリカに暮らすどのくらいの人が、この会議に期待して、明日からの生活がどのように変わっていくのかを思い描いているのか？

ケニアにいた頃、「日本の援助はいろんなことをしているでしょ」とケニア人の友人に聞いたことがある。政府の役人はもちろん賛同してくれたが、ほとんどの人にはその効果が目に見えることはなく、日々の生活に変化を感じることは少ないのではと思った。

投資・貿易の効果が長期的には人々の生活に変化をもたらす日もあるだろう。

ただ、今日の前にあるこの状況を、貧困を変えていくには、私は「経済の発展」「国の発展」の中であって、「個々人の経済的な発展」がなければ、アフリカは元気になんてなれないと思っている。